

# 写真教室／失敗例から学ぶ

# はじめに

- 写真のシャッターを押すのは小学生の高学年の頃でしょう。カメラの機能も知らず、ただ、被写体に向かってシャッターを押したものです。
- 青年期から大人になり、特に、デジタルカメラになって、機能が多くて、使い切れませんが、経験を積むことで、良い写真が撮れるようになります。しかし、我無しやらにより、先人の一言も大事です。
- ここに、ダメと言われたものを例題にして、より良い写真の撮り方を学んでいきましょう。

•



画面の上のほうに、ケーブルが写っているのを避けて撮るように。トリミングしなくても、撮れるようにしましょう。ズームレンズなら、ちょっと、アップにすれば解決します。

### ヒント

写真は感動した被写体を切り取ります。構図が大切です。ビデオと違い、静止画ですから動いているものを如何に1枚の画面に表現するか。また、色のグラデーションを楽しむ。



画面上方、車とか住宅など写り込まれています。駄目です。蓮池だけにすると、広がります。

コラム

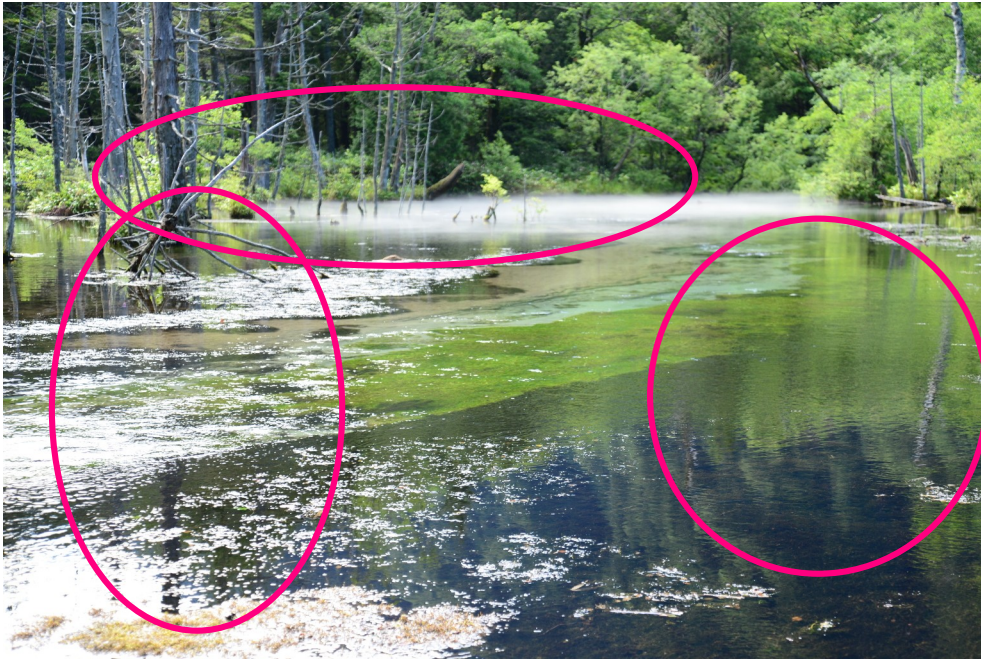
ピン惚け、手ぶれはボツです。



河原の砂利を見ますと、白飛びしてます。露出オーバーなんですね、濃淡の表現ができません。露出はアンダー気味にしましょう。

### ヒント

カメラメーカーは明るく映るようにセットしてることが多いです。カメラの設定で、露出を  $-0.3$  あるいは  $-0.7$  に直しましょう。アンダーにすると、空も青くなります。



この画面は対象が3つほどあるので、それぞれ切り取るように撮影してください。

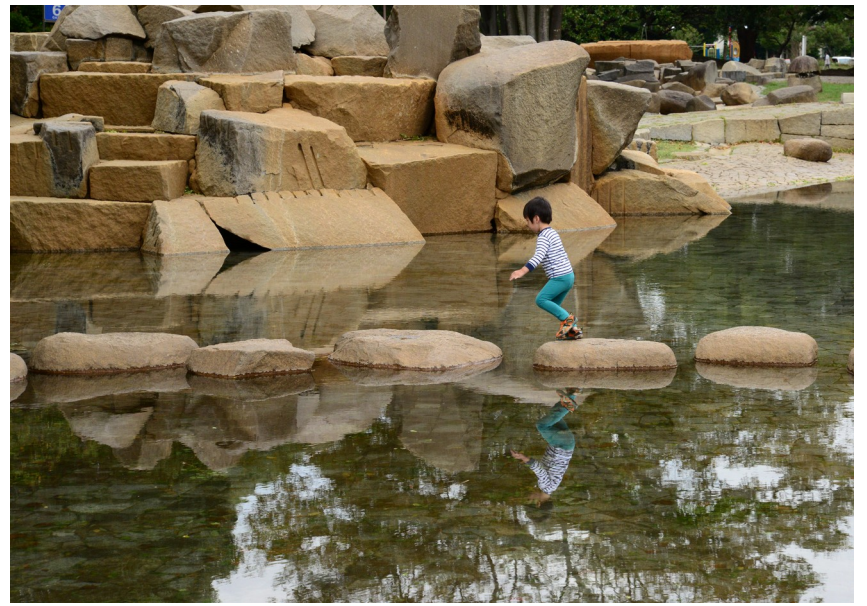
1. 奥の霧が立ち込めているところ。
2. 左の流れ。
3. 右下の色の変化を表現する。

コラム

露出を変えて、パチパチ撮る。



花があそこまでと限定されます。上の方の花のところまでカットすると、どこまで続くのか想像させます。



主体が子供ですから、3分割の構図に、上の石は池に写り込んでいるので、いらないです。空中に跳んでいる瞬間を捉えるのが、シャッターチャンスです。

ヒント

ファインダーをのぞくと、縦と横に3分割されています、その線の交点に、主体を置くと安定した写真になります。





樹木の銘板が見えます、写り込まないようにしましょう。

ヒント

プロでも、1つの対象に100～200枚撮って、2～3枚が生かされる程度です。あちらから、こちらから撮りまくりましょう。



道路標識がありますね、位置を変えて、写り込まないようにしましょう。バックをぼかすように、しぼりを空けて撮りましょう。



思い切り、アップで撮りましょう。トリミングすると画質が落ちます。

### コラム

見えてる部分から、自分が撮りたい主体に注目して、写真の範囲を絞り込んでから、範囲を広げてゆく。無くていいものを写し込まない。主体がボケてしまいます。



トリミングは全紙、半切りに出来ない場合が多々あります。展示に向きません。

コラム

タテ切りにかまえると、無駄がそり落とされ、主体が活かされます。



空が広すぎます。雲がきれいとか、青空などは良いが、白っぽいのはカットです。



菜の花が山より下に、山が少しでるようにアングルを取るのがベターです。



花の主体を生かすため、もっと、近づいて撮りましょう。

コラム

広角レンズでも被写体に近づいて撮る習慣を身につけましょう。



ピントは手前の大きいひまわりにしないとだめ、構図はいいかな。





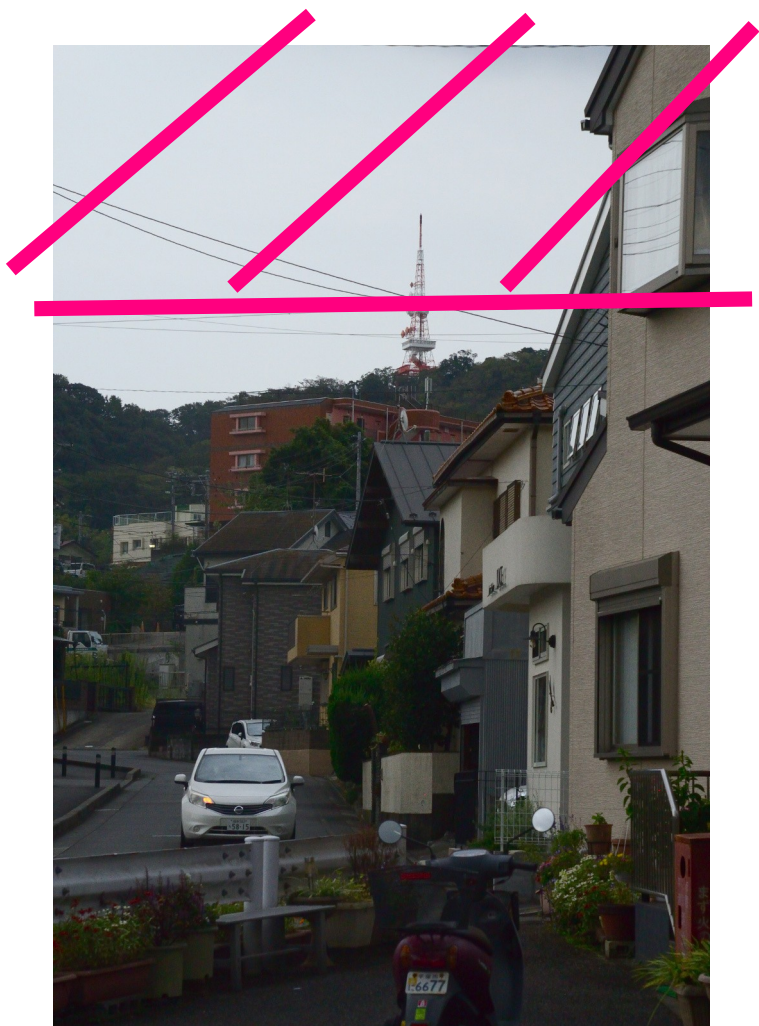
鳥が主体のようですが、波も生かしたいですね。鳥が右を見るまで待つ、そして、カメラを右に振る、鳥を左 3 分の 1、上下 3 分の 1、下側になるように構えましょう。

#### ヒント

赤枠がベストですが、鳥が動こうとする方向が狭いのでだめ。動く方向を考えて、窮屈にならないように。



ピントを手前の花に当てるように。



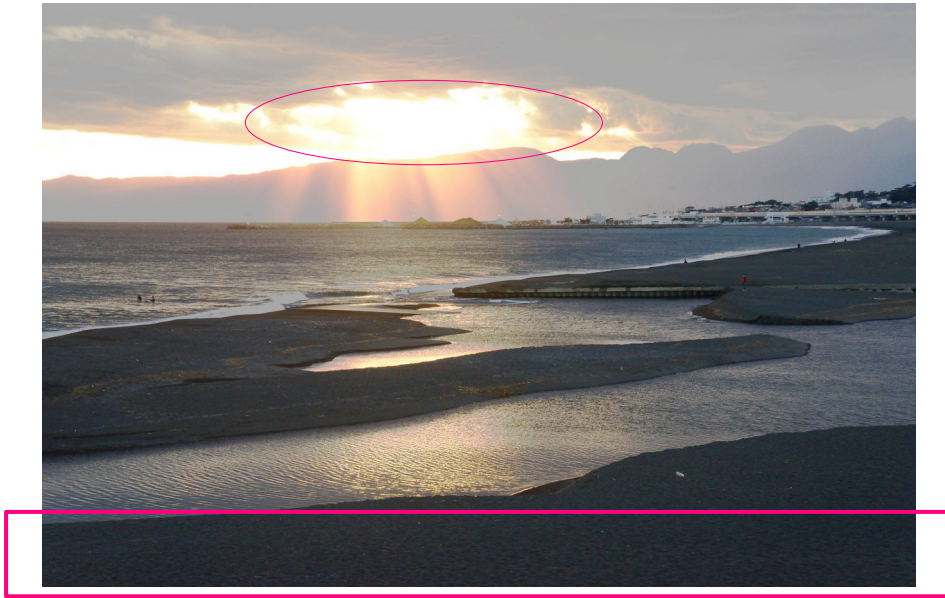
テレビ塔が全部写り込まなくても、湘南平と分かるのでカットする。



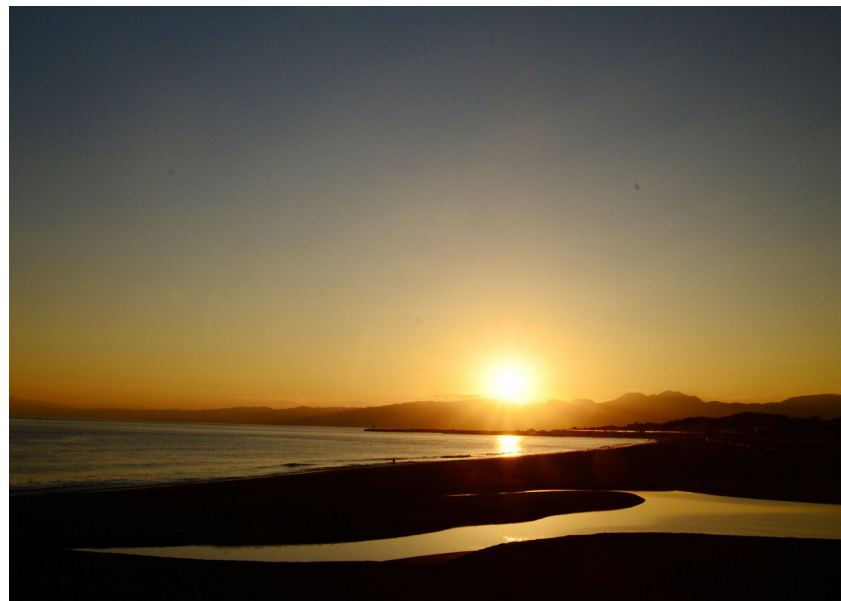
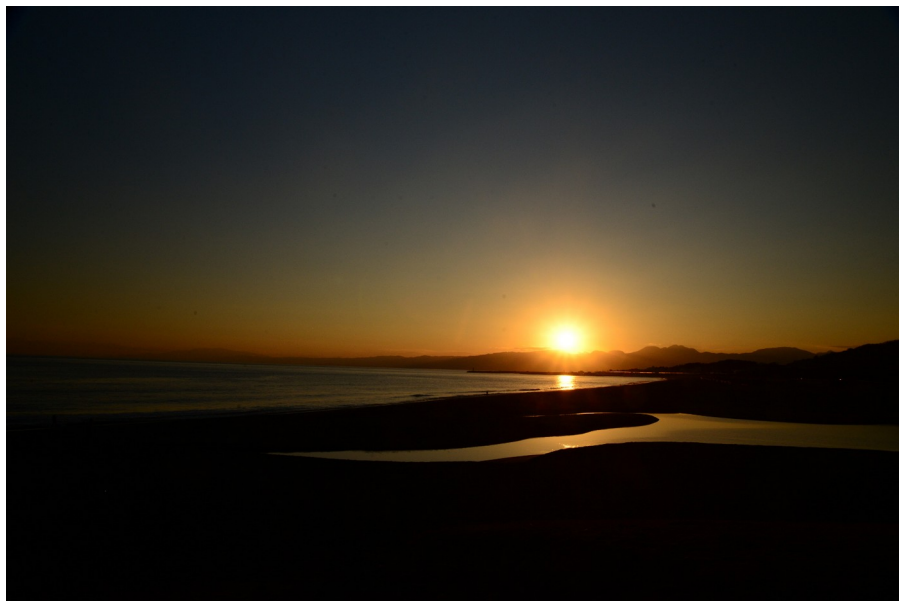
主体がハロインのカボチャですから、農機具の部分を半分カットする。主体を思い切り表現する。



人物が光の反射の位置に在る時がシャッターチャンスです。連写を使いましょう。



白飛びと砂浜が多いので、アンダーにして、構図を考えましょう。



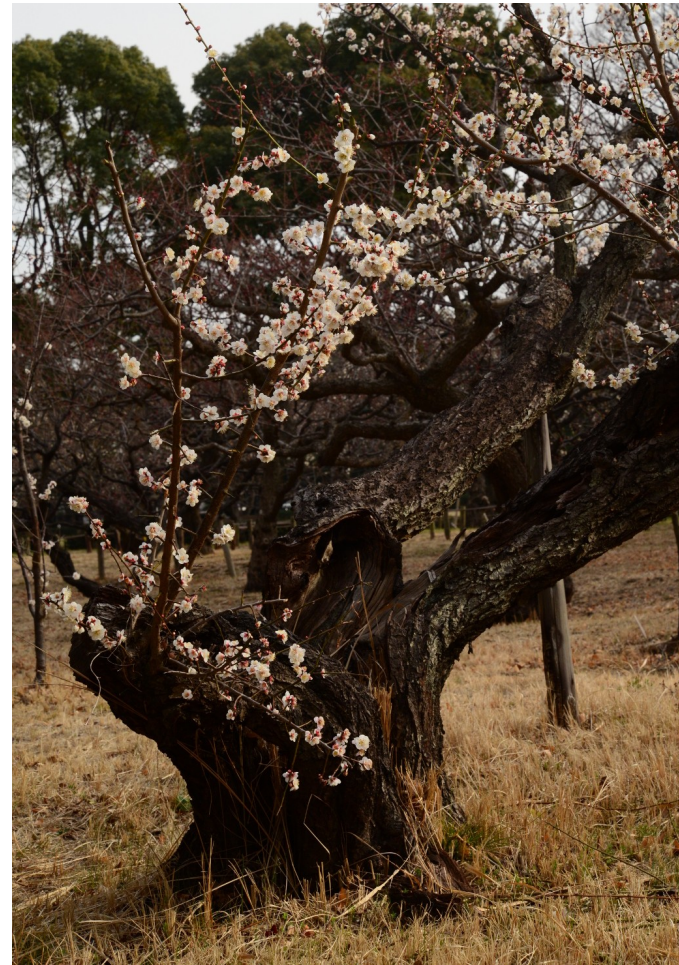
ズームアップして河口を手前に引き寄せる、砂浜が多すぎます。



フォーカスが新幹線のところですが、手前の花に焦点を合わせましょう。

コラム  
前ピンがベター。





上の空に目が行きます、梅の花に注目してもらうには空をカットします。



桜が主体でしょ、左の空間が広すぎます。半分ぐらいカットしましょう。

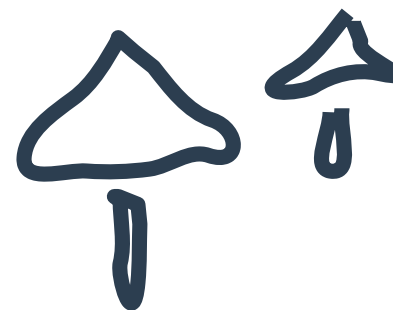
コラム

桜の木など動かないものは一周りして、どこからがベストか、考えて観る。



桜が主体で、背景画がはっきりして、スマホで撮ったみたいですよ。背景をぼかしましょう。芸術的になります。

背景をぼかすには、絞りを開ける。または、被写体に近付き広角で撮る。



きのこが2個平行に並んでいます。この場合、左が主ですから、カメラを左に回して、きのこを前後方向になるように、左に回り込んで撮りましょう。



カメラ目線を子供の目線まで下げて、シャッタースピードを 1/20 ぐらいにして、背景の柱などは手ぶれしないように、七夕飾りは風に吹かれているように、もう少し動きを表現する。

写真は昔から真を写すと言われていました。しかし、最近はデジタルになり、ソフトウェアも進歩して、色を替えたり、別の画像から切り取り貼り付けたり、いらぬものを消したりした加工写真を観ることがあります。これらはデザインアートで、写真ではありません。気を付けてください。

アマの写真愛好家がプロをめざさなくとも、被写体を一定の範囲に切り取るのですから、自分が一番感じた対象を画面のどこに据えるか、考えましょう。アングル、光線の取り方、色のグラデーションや動を静止画面に表現するなど基本を身に付け、他人から批評してもらい、納得したり、いやいやと熟慮して精進しましょう。

展覧会にも出展して下さい。入選したり賞を受けるには、また、別の苦勞があります。撰者の美意識が微妙に違いますから、この展覧会はこういう傾向と認識しないと難しいです。人工物や人物が写し込まれているとボツとする撰者もいます。

自分の個性を生かし、感動を与える写真を撮りましょう。